

令和 2 年 6 月 22 日現在

機関番号：12201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K01613

研究課題名(和文)小中高の連携を意図した表現運動の授業モデルの開発と実践

研究課題名(英文) Development and Practice of Teaching Model of Expression Movement for Cooperation between Primary and Secondary Schools

研究代表者

茅野 理子 (CHINO, Masako)

宇都宮大学・教育学部・名誉教授

研究者番号：60125812

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、小中高連携を意図したダンスの教育プログラムとして、体育を専門としない小学校教員でも基本的な授業展開の見通しをもって指導ができる授業モデルを構築することを目的とした。まず、「これだけは」という3つのポイント(導入、展開：課題提示、展開：個、グループで動きを工夫)を示して授業展開をまとめ、「何を、どのように」という授業の流れが簡易的に見えるようにした。その上で、授業計画立案の参考例として指導案を示すとともに、評価を明らかにして目標につなげた。それを基本として具体例を示し、その結果を報告書としてまとめた(全75ページ)。

研究成果の学術的意義や社会的意義

各教育現場のニーズに応え、ダンス経験の少ない教員(小中高の体育やダンスを専門としない教員)が、基本的な授業展開の見通しをもって指導ができる授業モデルを検討した。共通理解が図れるよう、簡易的な内容で平易に提示した授業モデルは、ダンス(表現運動)指導の一般化への提言として意義をもつと考える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to construct a teaching model of expression movement that can be taught by primary school teachers who do not specialize in physical education with a perspective of basic lesson development as a dance education program for cooperation between primary and secondary schools. First, the lesson is summarized by showing the three points (introduction, development：presentation of challenges, development：devising movements by individual and group). The flow of the lesson "what and how to teach" was shown simply. Then, as a reference example for lesson planning, a teaching plan was shown. The evaluation was clarified and linked to the goal. Based on that, a concrete example was demonstrated and the results were compiled into a report (75 pages in total).

研究分野：舞踊教育学

キーワード：表現運動 ダンス 授業モデル 小中高連携 指導の一般化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ダンス指導実践に関する先行研究として、平成3・4・5年度全国舞踊研究会プロジェクト研究による小中高教員を対象とした全国調査がある(松本、高橋、茅野他、1994)。これは、「大学専門教育改善のための現職教員のダンス指導実践に関する調査研究」であり、指導実践に関わる内容として、教員になってからの「指導の場」の重要性や男性教員に対する履修経験の拡大を図り、指導の担い手としての力量と自覚を図ることが必要であることなどを結論としている。

一方、必修化に伴い、近年様々な調査が県単位でも報告されているが、それに関わる主要な先行研究の一つとして、村田(2010)や中村(2009, 2010)は、必修への教員の理解と意識が必要であること、教師の負担感、学習の質が十分確保されているとはいえ、多くの教員がダンス指導法や指導力養成の必要性を感じているが、教員のダンス指導研修・教材研究はあまり進んでいないことを指摘している。

このような先行研究を踏まえ、また、比較検討しながら、栃木県全公立中学校におけるダンス授業の実態と課題を明らかにすることを目的として、平成24年度に質問紙調査を行った(茅野、2013)。その結果、中学校において指導要領に沿った実施がなされているが、現場の教員にとって、経験のなさなどから、教材研究などの面で戸惑いがあること、また、ダンス指導上の参考として、映像資料や講習会での実践が求められていることが明らかになった。

こうした現状の課題から、これまで、公開授業や研究会(平成24年度)を開催するとともに、小中高の指導を中心に、社会体育や特別支援学校の事例を含めて、ダンス指導の実践をまとめた報告書(平成26年度)を作成してきた。しかし、その過程で、専門用語や授業構想に関する共通理解の必要性、気軽に取り組める授業モデルの開発とDVD化、経験値の異なる生徒や教員の個に応じた教育プログラムの構築が課題として残された。

一方、表現運動やダンスに関する指導実践の研究報告は早くから行われ、優れた指導者を多数輩出しているものの、その反面、表現運動・ダンスの指導は難しいという声を未だに多く聞く。しかし、その難しいと感じる要因の分析は未だ不問のままのように思われる。本研究はその解明から着手し、初心の指導者が取り組みやすい表現運動の授業モデルを構築するとともにその学習支援ソフトを作成しようとしている点に独創的な特長があるとして研究を開始した。

2. 研究の目的

平成24年度から完全実施となった中学校でのダンス授業の必修化を受けて、小中高の連携をどのように図るのが良いのか、各ステージで何を目的としてどのように指導していくべきかが課題となっている。特に、中学校への円滑な接続という観点から、小学校段階での「表現運動」の指導は重要性を高めており、体育を専門としない小学校教員でも効果的に取り組める授業モデルと指導を支える学習支援ソフトの開発は急務となっている。その上で、中学校や高校のダンス領域を得意としない体育教員も積極的・意欲的に指導する動機や実践的な指導方法を高めるなど、ダンス指導の専門性を深化させることが必要である。

そこで、表現運動やダンスの授業が難しいとされる要因について、小学校教員との協働からその要因を明確に具体的に抽出することによって、目標や学習内容についての共通理解や専門用語の解説など、「一般の教員」に平易に提示する方策を確立する。これまでの公開授業や実践の成果を活かし、各教育現場のニーズに応え、ダンス経験の少ない教員(小中高の体育やダンスを専門としない教員)が、基本的な授業展開の見通しをもって指導ができる教育プログラム

を開発することに特化して研究を進めることにした。

3. 研究の方法

1) これまでの研究結果を含め、国内の先行研究及び実践報告資料を分析し、ダンス(表現運動)指導上の問題点を検討する。

2) 教員養成大学における実践研究により問題点の鮮明化を図るとともに、試案した授業モデルの有効性を学生による模擬授業で考察する。

3) 9名の小学校教員との協働(平成30年9月~31年1月、令和元年6月~2年1月の毎月1回計13回、各2時間)により、「表現運動」領域の指導の実態並びに問題点とその対応策についてさらに解明を進める。

このことを通じて、誰でも指導者となれる有効な表現運動(ダンス)の授業モデルを開発し、実践する。

4. 研究成果

先行研究や教員養成大学の学生に対する実践研究(茅野、2017、2018他)、小学校教員との協働(実践)等から検討された指導上の問題点とその対応策を以下のようにとらえた。

表現運動の授業に取り組む上で障害になる点としては、大きく3つの問題を検討した。

教材研究

何を指すのか不明瞭になりがちであるため、具体的かつ明確な示し方が必要である。

指導(学習)内容がわからないことが考えられ、そのために、「わかる・できる」ための手立てを提示すること。

表現運動の授業内容や指導過程を構想し、自分で計画を立てられない。そのために、一目で授業の流れが把握できるように、授業のポイントを明らかにすること。

教材の準備が困難であること。授業に即戦力となる掲示物や学習カード、有効な使用曲を示すようにする。

専門用語の共通理解が難しい面があること。例えば、卑近な例として、「いろいろな」とか、「もっと」などは、多様化や極限化を図る指導上の慣用的な言葉であるが、初心の先生には制限があった方が理解しやすいと考えられ、このような言葉を極力避けて、具体的なことばかけにするように検討する。

学習者への対応

助言の仕方がわからないこと。そのために、基本と発展の提示をすることで対応する。

動かない子(動けない子)への支援として、「遊び」の要素を取り入れること。

表現への抵抗感が指導者にも学習者にもあるため、ゲーム的な内容からの導入を図ること。

指導者自身の個人的課題

自分で動いて見せられないという不安については、日常的なリズムを含んだ遊び(ケンケンパーなど)で抵抗なく進められるようにする。

自分自身があまり表現運動(ダンス)を好きでないということで敬遠する場合がある。それは、イメージ、表現、創作に対する抵抗感に起因するものでもあると思われるので、ゲームなどでこれらをほぐすようにする。

そこで、授業モデルの基本方針と内容を次のようにおさえた。

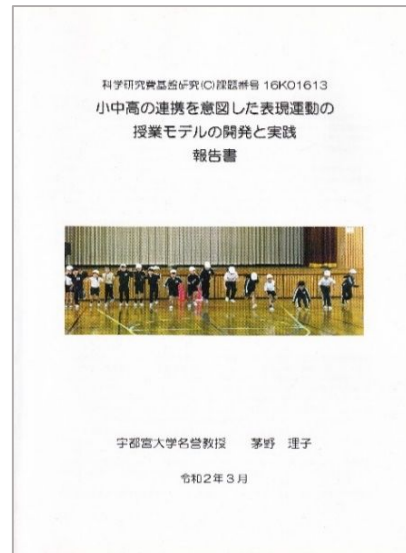
1) 導入、展開(課題提示)展開(個、グループで動きを工夫)でまとめ、「何を、どのように」という授業の流れが簡易的に見えるようにする。

- 2) 導入は、だれでも（指導者、学習者ともに）動けるものとし、遊びの要素を加える。
- 3) できるだけ簡潔に、図・写真で提示する。
- 4) 授業計画立案の参考例として指導案を示すとともに、評価（十分満足、概ね満足、努力を要する子への支援）を明らかにして「何を」につなげる。
- 5) 基本（だれもが実践可能な内容）と発展（個々に工夫できる内容）により学習者への対応の参考とする。

また、初心の指導者にとって、「走る - 止まる」を主要課題として取り組むと表現的な内容になり指導しやすいと考えられること、その動きの長さは10秒から始めると学習者にとっても容易に取り組みやすいこと、手がかかり（音楽、日常の運動遊び、図、運動課題、既存教材）のある内容を多く用意することなどを検討し、実践内容とした。

その結果を報告書としてまとめた（全75ページ）。ただし、学習支援ソフトの作成には様々な制約もあり、引き続いての課題となった。

報告書の内容は以下の通り。



報告書表紙

はじめに

本書の作成に当たって

第1章 理論編（発表論文等）

1. 栃木県学校体育におけるダンス指導の現状と課題について ダンス必修化に関するアンケート調査から
2. 小中高連携を意図した表現運動・ダンスの授業研究 小中高の実践事例を中心に
3. 表現運動の指導実践を促す大学時履修内容の検討 小学校教科「体育A」3回の実践から
4. 表現運動の指導意欲に差のみられた2クラスの比較考察 平成29年度「体育A」表現運動の授業実践から
5. 新学習指導要領にそった表現運動の指導（小川史子）
6. 管理職の立場からとらえた表現運動の魅力（小島治代）

第2章 実践編

1. 5分でも楽しく表現リズム遊び（朝の会、全校集会でできる表現運動）
2. 1時間で踊る・創る・観る 日常の運動遊びからリズムダンスへ発展
3. 1時間で踊る・創る・観る フォークダンスを手掛かりに
4. 1時間で踊る・創る・観る 図や運動課題を手掛かりに
- 5.（参考）手遊び歌からの発展 - 幼小連携
- 6.（参考）インクルージョン教育としての表現リズム遊び

資料

- ・実践報告：地域の民俗芸能を取り入れた表現運動の教材開発 伝統的な動きを基に自由な表現への発展を意図した授業実践
- ・実践報告等発表論文一覧

引用文献

- ・松本富子・高橋和子・茅野理子 他(1994) 現職教員のダンス指導実践に影響を及ぼす要因の検討 - 大学時履修経験が与える影響について - . 舞踊学 16 : 12-23 .
- ・村田芳子(2010) 表現運動・ダンスにおける学習内容の選定と妥当性の検証 . 科学研究費補助金研究(2007~2009) 成果報告書
- ・中村恭子(2009) 中学校体育の男女必修化に伴うダンス授業の変容 - 平成 19 年度, 20 年度, 21 年度および 24 年度の年次推移から - . Research Journal of JAPEW 26:1-16.
- ・中村恭子(2009) 中学校ダンスの男女必修化の課題 中学校教員を対象とした調査にもとづいて . 順天堂スポーツ健康科学研究 1(1)(通巻 13) :27-39.
- ・中村恭子(2010) 中学校体育全領域必修化に伴うダンス授業の変容と展望 - 東京都公立中学校を対象とした調査から - . 順天堂スポーツ健康科学研究 1(4)(通巻 16) :472-485.
- ・茅野理子(2013) 栃木県学校体育におけるダンス指導の現状と課題について - ダンス必修化に関するアンケート調査から - . 宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要 36 : 25-32.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 茅野理子	4. 巻 21号
2. 論文標題 機関誌『舞踊教育学研究』の成果と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 舞踊教育学研究	6. 最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 茅野理子	4. 巻 20号
2. 論文標題 第37回全国創作舞踊研究発表会報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 舞踊教育学研究	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 茅野理子	4. 巻 5号
2. 論文標題 表現運動の指導意欲に差のみられた2クラスの比較考察 平成29年度「体育A」表現運動の授業実践から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宇都宮大学教育学部教育実践紀要	6. 最初と最後の頁 525-528
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 茅野理子・木下友絵	4. 巻 5号
2. 論文標題 地域の民俗芸能を取り入れた表現運動の教材開発 伝統的な動きを基に自由な表現への発展を意図した授業実践	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宇都宮大学教育学部教育実践紀要	6. 最初と最後の頁 179-186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 加藤謙一・茅野理子・石塚 諭・木下咲夫・小宮秀明・久保元芳・黒後 洋	4. 巻 4
2. 論文標題 小学校教科「体育A」における授業内容の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宇都宮大学教育学部教育実践紀要	6. 最初と最後の頁 105-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 茅野理子	4. 巻 3
2. 論文標題 表現運動の指導実践を促す大学時履修内容の検討 - 小学校教科「体育A」3回の実践から -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 宇都宮大学教育学部教育実践紀要	6. 最初と最後の頁 485-488
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田明子・茅野理子	4. 巻 2
2. 論文標題 気軽に取り組める「体づくり運動」の教材開発 - 低学年の授業実践を通して -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 宇都宮大学教育実践紀要	6. 最初と最後の頁 113 120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計2件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 茅野理子
2. 発表標題 『舞踊教育学研究』の課題と展望
3. 学会等名 第38回全国創作舞踊研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 茅野理子
2. 発表標題 表現運動の指導実践を促す 大学時履修内容の検討 - 小学校教科「体育A」3回の実践から -
3. 学会等名 日本体育学会第68回大会日本体育学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

第37回全国創作舞踊研究発表会開催（実行委員長）
研究発表会、シンポジウム「舞踊教育の未来に向けて」、ワークショップ、創作舞踊発表会、2017.12.16-17、栃木県教育会館（栃木県、宇都宮市）

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	小川 史子 (OGAWA Humiko)		
研究協力者	木下 友絵 (KINOSHITA Tomoe)		
研究協力者	小島 治代 (KOJIMA Haruyo)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	狐塚 登喜枝 (KODUKA Tokie)		
研究協力者	野澤 聡子 (NOZAWA Satoko)		
研究協力者	武藤 紀子 (MUTOU Noriko)		
研究協力者	八嶋 純子 (YASHIMA Junko)		
研究協力者	山田 明子 (YAMADA Akiko)		
研究協力者	渡辺 優子 (WATANABE Yuko)		